

ねんが 年賀はがき

さいまつ ちか ねんがはがき ねんがはがき ねんがはがき ねんがはがき
歳末が近づくと、日本人が必ずと言っていいほどすることの一つに年賀状の準備
が挙げられます。年賀状とは、新年の挨拶のために出す書状のことで、その年の干
支に当たる動物の絵を添えることが多く、元旦に届くように送ります。日本郵便株
式会社が発行する官製のお年玉付年賀はがきは、抽選で賞品が当たるため、人気
が高いです。

げんぞん さいこ ねんがはがき へいあんじだい ねんがはがき ねんがはがき
現存する最古の年賀状は平安時代のものだとされていますが、日本の郵便行政が
ねんがはがき ねんがはがき ねんがはがき ねんがはがき
年賀はがきを発行するようになったのは戦後になってからです。年賀はがきが最初
に発売されたのは1949年12月1日で、現在では通常、毎年11月1日に発売開始され
ます。発行当初の枚数は1億8000万枚でしたが、戦後日本の経済復興や人口の増
加、高度経済成長に伴って年々発行枚数が増えていきました。しかし、2003年の
44億5000万枚をピークに、年賀はがきの発行枚数が減少し続け、2020年用の年賀
はがきは24億4000万枚で、2021年度は20億枚を下回りました。年賀はがきは、
ねんがはがき ねんがはがき ねんがはがき ねんがはがき
年賀特別郵便の取り扱い期間内に投函すると、年末まで郵便局に留め置かれ、元日
に配達される仕組みになっています。年賀はがきではない通常の郵便はがきや封書
でも、切手部分の下に年賀と朱書きすれば、同様に年賀郵便として扱われます。年
賀はがきには、付加金が付かないものと付加金付きのものとの2種類があります。
2021年現在では、付加金が付かない年賀はがきは通常はがきと同額の63円です
が、付加金付きのものには寄付金や図画等経費を乗せて68円で売られているもの
や、写真の印刷に適した光沢紙の73円で販売されているものなどがあります。

おお ひと むじ ねんがはがき ねんがはがき ねんがはがき ねんがはがき
多くの人は無地の年賀はがきを購入し、年賀状作成用ソフトを使用して年賀状
のデザインをしたり送付先の住所を管理したりします。送る相手は、あまり会う機
会がない家族や親戚、普段連絡が取れずにいる友人、勤務先でお世話になっている
上司・先輩・同僚などが含まれます。家族に亡くなった人がいる場合は、喪に服し

ているため、だいたい喪中の1年は年賀状を出さないのが慣習になっています。その際には、毎年^{さい}年賀状^{まいとしねんがじょう}のやり取り^とをしていた人^{ひと}に向けて、喪中^{もちゅう}はがき^だを出し、年賀欠礼^{ねんがけつらい}の挨拶^{あいさつ}を行います。喪中^{もちゅう}はがき^うを受け取った側^{がわ}は、年賀状^{ねんがじょう}を控えるのはもちろん、喪中見舞い^{もちゅうみま}を送^{おく}って気遣い^{きづか}を示すのが礼儀^{しめ}です。年賀^{ねんが}はがき^{としだま}にはお年玉^{おとしだま}くじが付^ついており、毎年^{まいとし}1月^{ちゅうげん}に抽選^{おこな}が行われま^{げんざい}す。現在^{いっとう}、1等^{にと}・2等^{ふくすう}については複数^{けいひん}の景品^なの中から好き^すなもの^{ひと}を1つ^{せんたく}選択^{たい}できるよう^{すえとう}になっているの^{つね}に^{おとしだま}対し^{きって}、末等^{とうせん}は常に「お年玉切手シート^{ばんごう}」です。当選^{ゆうびんきょく}した番号^{じさん}の付いた^{きって}はがき^{きって}を郵便局^{きって}に持参^{きって}すれば、切手シート^{きって}は窓口^{きって}で即日^{きって}交付^{きって}してもら^{きって}えて、1等^{きって}や2等^{きって}の賞品^{きって}は後日^{きって}郵送^{きって}となります。また、無駄^{きって}を省^{きって}くために、書き損じ^{きって}や余^{きって}った年賀^{きって}はがき^{きって}は郵便局^{きって}へ持^{きって}っていき、所定^{きって}の手数料^{きって}を払^{きって}えば、普通切手^{きって}やはがき^{きって}、封筒^{きって}などに交換^{きって}してもら^{きって}えます。

SNSの普及^{ふきゅう}などが原因^{げんいん}で年賀状^{ねんがじょう}離れ^{ばな}が進^{すす}んでおり、年賀状^{ねんがじょう}を出す^だのが常識^{じょうしき}という考^{かんが}えも徐々^{じょじょ}に変^かわってきています。しかし、忙^{いそが}しい年末^{ねんまつ}に自分^{じぶん}と縁^{えん}のある人^{ひと}たちを思^{おも}いながら年賀状^{ねんがじょう}を用意^{ようい}するのはやはり特別^{とくべつ}な意味^{いみ}があります。日頃^{ひごろ}お世話^{せわ}になっている人^{ひと}への感謝^{かんしゃ}の気持^{きもち}を伝^{つた}えるのに有効^{ゆうこう}な手段^{しゅだん}であると同時に、元日^{どうじ}に受け取^うる年賀状^{ねんがじょう}を楽^{たの}しみにしている人^{ひと}もまだ大勢^{おおぜい}いるでしょう。